

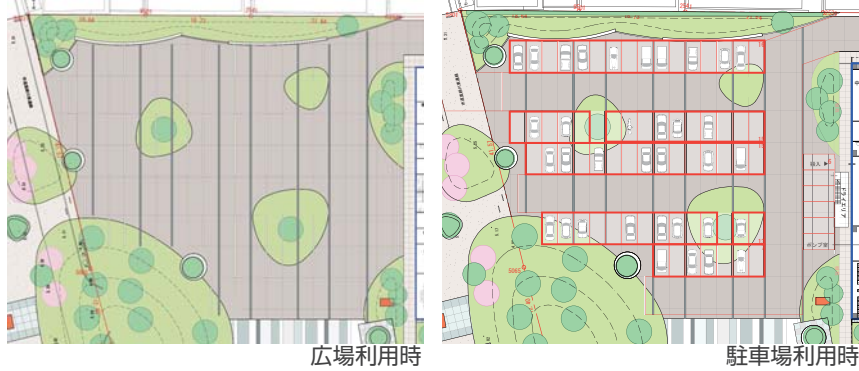
8. 広場計画

■広場計画の方針

新庁舎は「緑の軸」としてのシンボルロードと「水の軸」としての真締川が交差する本市の「へそ」に位置します。これらの軸に導かれる人の流れや自然・風景を庁舎づくりに取り込み、美しさを感じ、本市のまちづくりを先導する広場とするため、市民・緑・水・まち・庁舎を繋ぐ6つの広場からなるセンターコア広場として計画します。また、センターコア広場のコンセプトを宇部らしさを象徴する空間づくりとして「庭的空間」「親水空間」「アート空間」を合わせ持つ「Art Garden Plaza」として整備していきます。

①真締川と庁舎をつなぐ「多目的広場」

真締川公園の緑や周辺の景観と調和のとれた緑に囲まれた広場とするともにイベント利用や多目的に利用できる広場とします。また、平常時は70台の駐車場としても利用できる計画とします。

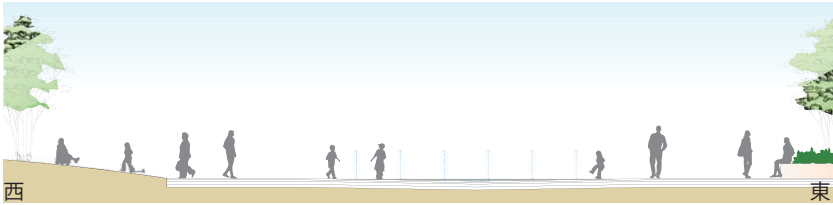


広場利用時

駐車場利用時

②常盤通りと真締川をつなぐ「憩いの広場」

シンボルロードとしての常盤通り「緑の軸」と真締川「水の軸」の交わる立地を活かし、豊かな親水空間のある市民の憩いの場とします。



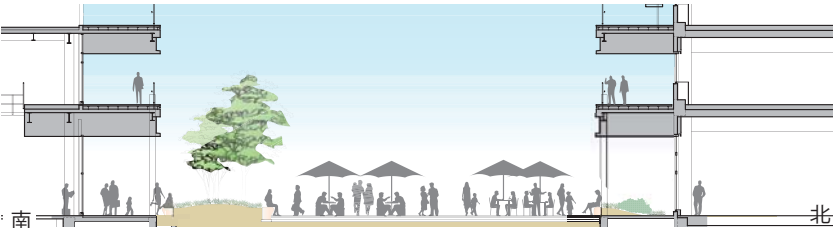
憩いの広場の断面イメージ



参考：大分駅前広場

③市民と市民をつなぐ「宇部広場」

窓口手続きの合間や市民活動交流スペースでの活動の合間にくつろげる空間とするともに、宇部まつりなどのイベント時に中心となる場とします。



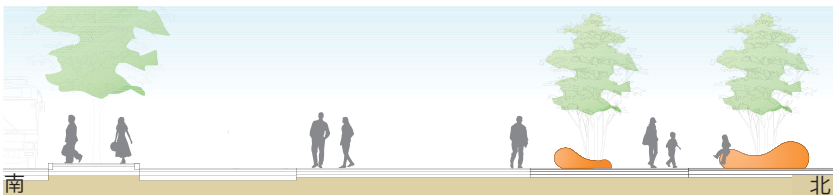
宇部広場の断面イメージ



参考：久留米シティプラザ

④常盤通りと庁舎をつなぐ「常盤並木広場」

常盤通りに面する庁舎の前面には、並木や花壇、アートのベンチなどを設け、常盤通りの緑の軸を強調するとともに、市民がくつろげる場とします。



常盤並木広場の断面イメージ



並木イメージ

6つの広場からなるセンターコア広場のイメージ



⑤まちと庁舎をつなぐ「おもてなし広場」

市役所前交差点に面する庁舎南東の角は、シンボルとなる彫刻又は樹木を配置し、まちから庁舎へのアプローチ空間とします。



シンボルとなる楠木のイメージ

⑥市民と美しいまちをつなぐ「屋上花壇広場」

2期庁舎の屋上に『新・緑と花と彫刻のまち』にふさわしい花壇を設置し、市民がくつろげる場とします。



町田市庁舎の屋上広場